

## 日本初の国際チェロ・コンクール 市民の手で開催へ



「ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール」は、20世紀最高のチェリストのひとり、カサド(1897 - 1966)の名を冠した国際コンクールである。若く優秀な音楽家の発掘と育成を目指して、カサドの妻でピアニスト原智恵子

(1914 - 2001)の主宰により、フィレンツェでカサド没後10回まで開催された(1969 - 1990)。最期の時を多摩地域で過ごした原智恵子の遺志を引き継ぐため、八王子市民有志たちが立ち上がり、今16年の空白を経てコンクールが復活する。

協奏曲を演奏するガスパール・カサド氏

(写真)玉川大学教育博物館所蔵

情報誌愛称「レキエブロス」  
由来はカサドの名曲から

情報誌の愛称は、G・カサドが、師カザルスへの敬愛の心をこめて作った小曲の題名であり、日本語では「親愛の言葉」と訳されている。スペインの生んだチェロの巨匠ガスパール・カサドはチェロ曲の作品も多く、この曲はもっともポピュラーな作品の一つであり、彼自身も演奏会のアンコールには必ずこの曲を弾いていたという。本コンクール課題曲に使用されるカサド作品は、テープ予選における選択的課題、「愛の言葉」(Requiebros)の他、第1予選に「緑の悪魔の踊り」、第2予選に無伴奏チェロ組曲(全楽章)が組み込まれている。

### 第1回ガスパール・カサド 国際チェロ・コンクール in 八王子 <2006.11.23 - 2006.12.03 > 開催概要 (募集要項抜粋)

#### 日 程

第1予選  
11月23日(木)～25日(土)  
第2予選  
11月26日(日)～28日(火)  
本 選  
12月2日(土)  
表彰式・披露演奏会  
12月3日(日)

#### 会 場

八王子市芸術文化会館 いちようホール

#### オーケストラ

東京フィルハーモニー交響楽団  
指揮:十束尚弘

#### 参加資格

国籍に関わりなく、1978年以降に出生した者が参加できる。

#### 審 査 員

倉田澄子(日本)  
林 峰男(日本)  
安田謙一郎(日本)  
リチャード・アーロン(USA)  
ルイス・クラレット(スペイン)  
ヴォルフガング・レーナー(スイス)  
ヒュン・ミンジャ(韓国)  
アラン・ムニエ(フランス)  
アレクサンダー・ルーティン(ロシア)

#### 賞

第1位 賞金150万円・賞状・メダル  
第2位 賞金80万円・賞状・メダル  
第3位 賞金50万円・賞状・メダル  
その他、ガスパール・カサド作品最優秀演奏賞、日本人作品最優秀演奏賞、聴衆賞、原智恵子賞(最優秀伴奏者)

#### 課 題 曲

<第1予選>  
●無伴奏チェロ組曲よりプレリュード  
とサラバンド(J.S.バハ)  
●緑の悪魔の踊り(G.カサド)

など、計5曲を演奏

#### <第2予選>

出場者の選曲によるG・カサド無伴奏チェロ組曲(全楽章)を含むリサイタル・プログラムを組む。プロのチェリストに要求される力量を十分に表すことのできる、多様なスタイルの曲目から成るプログラムであること。

#### <本 選>

下記の協奏曲より任意の一曲  
●協奏曲 二短調(E.ラロ)  
●協奏曲 イ短調 作品129(R.シューマン)  
●協奏曲 ホ短調 作品85(E.エルガー)  
●ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 作品33(P.チャイコフスキー)  
●協奏曲 第2番 ホ短調(交響的協奏曲) 作品125(S.プロコフィエフ)  
●協奏曲 第2番 ト短調 作品126 (D.ショスタコーヴィチ)  
●協奏曲 作品22(S.バーバー)  
●協奏曲 (W.ルトスワフスキ)  
●協奏曲「遙かなる遠い国へ」(H.デュティユー)  
●協奏曲 第2番 (K.ペンデレツキ)  
●チェロ交響曲 作品68(B.ブリテン)  
●協奏曲 (W.ウォルトン)

### 第1回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールin八王子 開催にあたり

八王子市長・黒須隆一

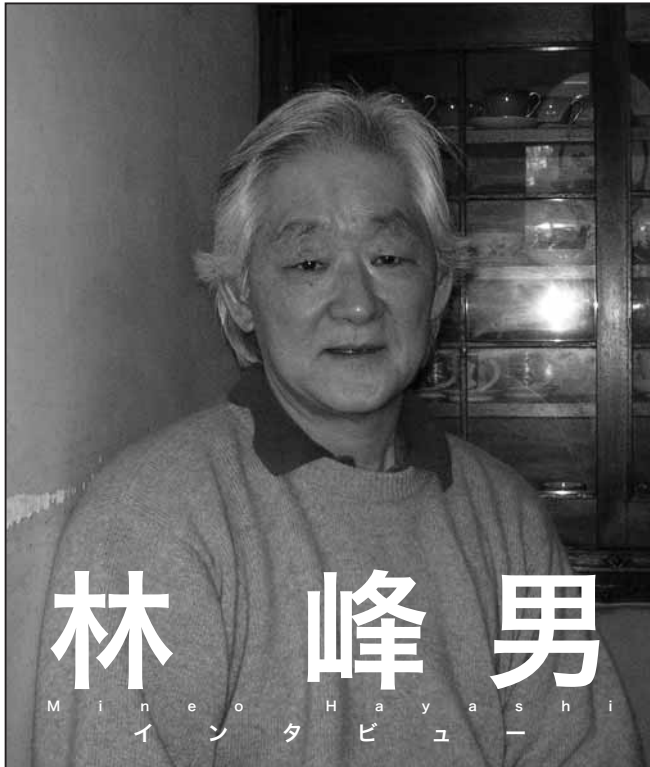
(ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール実行委員会名誉会長)

“第1回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールin八王子”が華やかに開催されますことを心からお祝い申し上げます。

20世紀を代表するチェリスト・作曲家であるガスパール・カサド氏ゆかりの国際チェロコンクールが本市で開催されるといふ夢のような試みが、いよいよ実を結ぼうとしております。イタリア・フィレンツェで開催されていた権威あるコンクールを継承し、八王子から世界に羽ばたく若きチェリストを誕生さ

せようという壮大な計画が、なによりも市民の皆様によって企画され、多くの市民、団体、企業等の支援のもとで実現されることは、誠に意義深いことでもあります。

折りしも本市が市制90周年の節目を迎えるこの年に、世界共通の言語である音楽を通じて、国際交流が深まるとともに、このコンクールの成功により、八王子から新たな文化が発信されますことを期待し、挨拶と致します。



## 父から託された夢 それがチェロとの出会い

3月31日、国分寺の“Café de Café”にて本コンクールの審査員林峰男氏にお話を伺いました。

### 自分で選んだ楽器でもなく 親に言われて始めたようなもの

先生が色々な楽器の中から、お育ちになった環境も含めまして、チェロをおはじめになったきっかけは何だったのですか。「それは、父がアマチュアでチェロをやっていたんですね。僕がチェロをはじめたのは、小学校2年生ですが、その8歳の子ども玩具のひとつでした。それを見ていた父はチェロをはじめて1年か2年でしたが、大人になってからは始めることは、いかに難しいかってことを実感しまして、子どもに自分の夢を託したんですね。ですからよくあるように、自分で選んだ楽器でもなく、親にいわれてはじめてようなものです。」

毎日の生活のなかに自然にあったということですか。

「ええ。」

それからずっとチェロの魅力にとりつかれたのですか。「いやいや。とりつかれたのは、

本当にヨーロッパに行ってからで、23歳か24歳ですね。」

そうですか。今ご自身にとってのチェロというのは、どういふ存在なんでしょうか。

「それは、生まれ変わって、職業に選ぶかどうかはともかくとして、また音楽をやるんだったら、やっぱりチェロです。ピアノとかヴァイオリンとか他の楽器はある程度、技術面でもほとんど完成されていますが、チェロというのはまだまだ技術的に難しいところがあり、可能性を秘めています。それに、楽器の持っている特性が自分の性格に合うんです。」

### 1位になって人生を変えようなんて、これっぽっちも思っていなかった

次にベオグラードの国際チェロコンクールのお話を伺いたいのですが、先生おいくつでいらしたんですか。

「29歳のときでしたね。一番年長者でした29歳というのは。国際コンクールを受けられる最後の年でしたから。人間ってだいたい20代の後半に自分の人生を決めることが起こるわけで

## PROFILE

幼少よりチェロを始め、桐朋学園にて斎藤秀雄氏に師事。ジュネーブ音楽院を第1位卒業後、ローザンヌ室内管弦楽団のソリストとしてヨーロッパデビュー。76年アメリカ・デビュー、翌年スペインの「カザルス生誕百年記念コンサート」に招待される。スイス・ロマン管、ザグレブ・フィルなど著名オーケストラと共演する一方、室内楽、リサイタルなど多くの演奏会を、スイスを本拠地として世界各国で開いている。国際スズキメソード音楽院教授を務めるなど、後進の指導にも力を注いでいる。

すよ。僕の場合、ほとんど同時でした。仕事を見つけて、結婚して、子どもができて、そうこうしているうちにコンクールを受けることになりましたね。1位になって、人生を変えようなんてこれっぽっちも思っていなかったわけですよ。

それで、バラ色の演奏活動ができるのはもちろん思っています。29歳で子どもかかえて女房かかえて、苦しい人生になるだろうと想像してましたけどね。」

先生の活動の拠点がスイスというふうになっていますが。

「活動の拠点というより、生活の拠点です。何故スイスかというと、結果としてなんです。ジュネーブにいた友達が、ここはお前にとって最高だから、是非遊びに来いというので、買ったばかりのおぼろフォルクスワーゲンで行きましたよ。湖があって、山があって、噴水があって、もう天国ですよ。一週間いて決めてしまいました。その頃、デュッセルドルフの音楽院に入る手続きをしてたんですが、そんなの一切捨ててすぐ荷物まとめて出てきました。音楽じゃないんです。山と自然と、スキー。」

その後、ジュネーブからローザンヌに移られましたか...

「ローザンヌに移ったのは結婚するんで、仕事を見つけたときにローザンヌ室内合奏団の席を得たからなんです。そしてコンクール受けて、苦労の人生が始まった。」

### 毎朝チェロを弾く前に腕立て じゃなく指立てをしました

そして、その10年後にバツ八無伴奏チェロ組曲全6曲を一晚でという画期的なことをされましたが、しかも日本縦断という。

「ああ、やりましたね。」

大変だったのでしょうか。

「大変というより、不可能に近いですね、実際。全部やると3時間半ですかね。」

何が無理かというところ、集中力も確かに大変ですが、それより肉体的に無理なんです。

あの時は5ヶ月間バツハばかり弾いていたんですが、6曲あるうち4番のプレリウド終わったらもう指が動かないんです。こりゃ肉体を鍛えないととても不可能だと思って、毎朝チェロを弾く前に腕立てじゃなく、指立てをしましたよ。自分でもよくやったと思います。いまでもジョギングはしていますが...

何事にも体力が必要なんです。さて、カサドの作品をいろいろ演奏していらっしゃると思いますが、どのような印象をお持ちですか。

「それはやはり、カサドの作品にはスペインっていう土壌がバックに顕れていて、例えば無伴奏チェロ組曲など、それこそ本当に情緒豊かな作品を書いています。」

カサドは日本によく来てまして、当時高校1年生だった僕も公開レッスンを受けたんです。やさしい方でしたよ。その時、伴奏して下さったのがカサド夫人の原智恵子さんでした。その時の写真がスイスの家にあります。」

カサド国際チェロ・コンクールの開催に向けて準備を進めているところですが、審査員として何か一言ありましたら。

「コンクールというのは、教育の一環として、とっても大切な要素を持っていますから、僕はその審査員として選ばれたことを嬉しく、名誉なことだと思います。せっかくこうして第1回目为实现するんですから、無理をせず長く続けられるようにしたいですね。」

そのように頑張りたいです。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

# カサドの年譜

— その 1 —

G・カサドの資料については日本語で発行されているものは少なく、海外で発行されているものも入手が困難である。20世紀を代表するチェリストでありながら最盛期が大戦時期であったために録音も少なく、演奏家としてのカサドの実像は驚くほど知られていない。

幸いなことに原智恵子氏のご遺族により寄贈された多くの

遺品が玉川大学教育博物館に所蔵されている。

REQUIEBROS では 1997 年 9 月 30 日に同大学で開催された「カサド生誕百年祭」でのプログラムや遺品を元に G・カサドの年譜を数回に分けて掲載していきたい。詳細な年譜を紹介することでその作品の背景、また演奏家としての理解をより深めていただければと考える。



参考資料：玉川大学 1997 年

カサド生誕百年記念祭 " 記念コンサート " プログラム p.18

## ---- 編集後記 ----

待望の REQUIEBROS 第 1 号発行である。コンクール本番への進行状況を皆さんにお伝えするほか、毎回、コンクールに関わっていただく方へのインタビューと、カサド年譜を掲載していくこととなった。

今号の林峰男先生へのインタ

ビューは、桜満開の 3 月 31 日、先生ご推奨の国分寺駅ビルにあるしゃれた喫茶店 "Café de Café" で行われた。私たち広報部は、キリマン、マンデルン、モカマタリなど、各々好きなコーヒーを飲みながら、林先生の暖かなお人柄に包まれてなごやかに進められた。

1897 年 (0 歳)

9 月 30 日、スペイン北東部の、地中海に面した地域カタルーニャの都市バルセロナに父ホアキン・カサド (1867 - 1926) と母アグスティーナ・モレウとの間の第三子として生まれる。父は、当地の作曲家であり、ラ・メルセド教会のオルガニストであった。

1902 年 (4 - 5 歳)

父が校長を務めるバルセロナ音楽院「ラス・メルセデス」に入学。最初の音楽教育が始まる。少年はすぐに音楽的才能を顕し始め、まもなく音楽院内の少年聖歌隊の一員に選ばれる。

1904 年 (6 - 7 歳)

7 歳になると、かねてから欲しくてたまらなかったチェロが両親からプレゼントされる。後になって、彼は「どんな玩具よりも音楽と楽器に興味をそそられた」と当時のことを述懐している。チェロを手にしたガスパールは、父がオルガニストを務めていた教会の中間のディオニシオ・マルシにチェロを学び始める。系統立ったレッスンで、ガスパール少年はめきめき腕を上げる。父は息子に音楽理論と作曲法を教えた。また母からは、繊細さ、バイタリティー、センスといったものを受け継ぐ。

1906 年 (8 - 9 歳)

初めて公の舞台に立つ。この時のカサドはチェロ奏者としてではなく、ピアニストとして出演。

1908 年 (10 - 11 歳)

バルセロナ市から奨学金を得てパリに出、パブロ・カザルス (1876 - 1973) にレッスンを受ける。この時兄のアグスティンも同様に市から奨学金を受け、ヴァイオリニストのジャック・ティボーに師事する。パリでは、父と兄とともにトリオを結成する。パリ時代のカサドは、さらにドビュッシー、ファリャ、ラベル、カセッラといった作曲家との交流から強い影響を受ける。

1914 年 (16 - 17 歳)

第一次世界大戦始まる。ガスパールはバルセロナに戻り、父について作曲法の勉強をする。

1918 年 (20 - 21 歳)

国際的な活躍の幕が切って落とされる。カサドは一直線にトップの座にまで上がっていく。その後、偉大な指揮者、フルトヴェングラー、メンゲルベルク、ヴァインガルトナー、ピーチャムらと共演。ブラームスの二重協奏曲では、フーバーマンやシゲティといったヴァイオリニストとも共演し、またアルトゥール・ルビンシュタイン、ガルロ・ゼッキ、ハロルド・パウアー、ホセ・イトウルビといったピアニストとともにリサイタルを開く。演奏活動と平行して編曲を含めて、チェロの作品を数多く作曲する。ところで活躍の影には、彼のパトロンの存在とも言えるジュリエッタ・メンデルスゾーン = ゴルディジャーニの存在を忘れることはできない。イタリアのピアニスト・作曲家ジュゼッペ・ブオナミッチの弟子であった彼女は、哲学者モーゼス・メンデルスゾンの後裔で、大作曲家フェリクス・メンデルスゾーン・バルトルディを大叔父に持つローベルト・メンデルスゾーン男爵夫人だった。彼女は当時の音楽界の大御所的存在として幅広い交友関係から大きな影響力をもっていた。

次号へ続く

コンクール関連事業

CHAPEL CONCERT



**CHAPEL CONCERT Vol.31**  
**7/11(火)** **鈴木秀美**  
 (演奏曲目)  
 J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲  
 第1番 ト長調 BWV1007  
 第3番 八長調 BWV1009  
 第5番 八短調 BWV 1011  
 写真：三浦興一

会場 八王子ホテルニューグランド 英国チャペル  
 開演 19時30分  
 料金 3,000円

お問合せ・チケット申込  
 チェロ・コンサートコミュニティー  
**042(625)2120**

今後の予定  
**CHAPEL CONCERT Vol.32**  
 10月10日(火)  
 出演者：アラン・ムニエ(チェロ)  
**CHAPEL CONCERT Vol.33**  
 11月7日(火)  
 出演者：林 峰男(チェロ)

その他、以下の無料コンサートを関連事業として開催しています。

- 6/16(金)**  
 会場：八王子市役所玄関ロビー  
 時間：12時15分開演
- 6/22(木)**  
 会場：京王プラザホテル八王子ロビー  
 時間：15時、17時 2回公演
- 7/15(土)**  
 会場：JR八王子駅ビル9階・NOW  
 時間：13時、15時 2回公演
- 7/29(土)**  
 会場：そごう八王子店ミレニアムコート  
 時間：13時、15時 2回公演
- 8/5(土)**  
 会場：いちょうホール玄関ロビー  
 時間：12時15分開演
- 8/19(土)**  
 会場：そごう八王子店ミレニアムコート  
 時間：13時、15時 2回公演

上記の公演日程は、変更となる場合があります。予めご了承下さい。  
 また、その際はウェブサイトで発表いたします。

主催

ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール実行委員会

(構成：八王子市 / (財)八王子市学園都市文化ふれあい財団 / NPO法人チェロ・コンサートコミュニティー)

特別後援

A.C.E.R.M.(コンクール・音楽フェスティバル協会<フィレンツェ>)

後援

外務省 文化庁 八王子市教育委員会 NHK(日本放送協会)  
 日本チェロ協会 (社)日本演奏連盟  
 NPO 国際チェロアンサンブル協会  
 昭島市 あきる野市 稲城市 清瀬市 国立市 小金井市  
 国分寺市 小平市 狛江市 立川市 多摩市 調布市  
 西東京市 羽村市 東久留米市 東村山市 東大和市  
 日野市 府中市 福生市 町田市 武蔵村山市  
 奥多摩町 日の出町 瑞穂町 檜原村

第1回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール in 八王子は、  
 ご覧の企業・団体の皆様にご支援頂いております。

特別協賛  
**オリンパス株式会社**

協賛

- カシオ計算機株式会社 株式会社関電工 佐藤産業株式会社
- 株式会社サン・ライフ 株式会社セーラムインターナショナル
- セントベル幼稚園インターナショナル
- 中央電子株式会社 東京工科大学 日本工学院八王子専門学校
- 東京八王子南ロータリークラブ
- 株式会社日本エネルギー 横河電機株式会社 市川矯正歯科医院
- 多摩信用金庫 株式会社ムラウチ
- 株式会社アイ・ピー・アール 株式会社アラジンジャパン 昭和建設株式会社
- 杉本会計事務所 東京土地建物株式会社 八王子テレメディア株式会社
- 平谷法律事務所 ヤマニシ電子株式会社
- 株式会社愛和セレモニー 谷合フク バイオニア株式会社 八王子ターミナルビル株式会社
- 松下電器産業株式会社 みずほ銀行八王子支店

- 株式会社イーアダムアソシエイツ あかだ眼科 おがわ歯科医院 株式会社カイト 京崎株式会社
- クロスフィールド株式会社 有限会社ケイズ保険事務所 ケーオーデンタル株式会社 小泉裕之司法書士事務所
- 有限会社国際音楽交流研究所 株式会社コムネット 坂本クリニック 山栄産業株式会社 三多摩コンクリート株式会社
- 株式会社G.I.A 有限会社J.C.C 株式会社シグマ 衆田産婦人科医院 鈴木診療所 須田動物病院
- スベイスンケミカル株式会社 関根歯科医院 有限会社大学セミナーハウス食堂 谷口会計事務所
- 東急建設株式会社 東京コカ・コーポトリング株式会社八王子営業所 東京純心女子学園 東京八王子東ロータリークラブ
- 中島部夫事務所 株式会社日商平野 八王子音楽院 八王子建物管理株式会社 八幡神社 有限会社ハマプロモーション
- 株名エンジニアリング株式会社 株式会社マイクロ電子工業 株式会社清口祭典 株式会社メディックス
- 山五金業株式会社 大和自動車ガラス株式会社
- ヤマハサウンドテック株式会社 山本経営労務事務所 ユーキャン株式会社 株式会社横山家具
- 株式会社YDM 渡辺普通教室
- 株式会社新室機械 株式会社連勝度量 ことぶき繊維加工株式会社 有限会社埼玉屋本店 株式会社サンエス
- NPO法人歯科医学教育国際支援機構 谷口会計事務所 株式会社デリカメゾワ 東産産業株式会社 西田橋医院 株式会社ニューア社
- 橋本昭治 株式会社八綱 濱村千鶴子 藤森株式会社

協力

全日本空輸株式会社 日本ヒューレット・パッカド株式会社

- 東京八王子ロータリークラブ 東京八王子西ロータリークラブ 東京八王子東ロータリークラブ
- 東京八王子南ロータリークラブ 東京八王子北ロータリークラブ
- 東京八王子ライオンズクラブ 東京八王子中央ライオンズクラブ 東京八王子いちょうライオンズクラブ
- 東京八王子高尾ライオンズクラブ 東京八王子駿東ライオンズクラブ 東京八王子鳥居ライオンズクラブ
- 東京日野ライオンズクラブ 東京日野かしの木ライオンズクラブ
- 国際ソロプチミスト八王子 八王子歯科協会 精琴堂

発行日 2006年6月3日(第1号)  
 発行元 ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール実行委員会  
 発行責任者 会長 杉本敦子  
 編集元 NPO法人チェロ・コンサートコミュニティー広報部  
 お問合わせ ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール実行委員会  
 〒192-0052 東京都八王子市本郷町4番3号  
 Tel. 042(625)2366 / Fax. 042(625)2430  
 Mail. info@cassado-cello.jp

後援団体、協賛企業・団体等の情報は2006.05.26現在のものです。  
 最新の情報は、<http://www.cassado-cello.jp>にてご確認頂けます。

”第1回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールin八王子”  
 今秋開催に向け、サポーター会員を募集しています。

詳しくはウェブサイトをご覧ください。  
**www.cassado-cello.jp**

